

CASBEE[®] 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	清滝3丁目アパートメント	階数	地上11F
建設地	福岡県北九州市門司区清滝3丁目1-3	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	30人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	0時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年2月 予定	評価の実施日	2012年12月11日
敷地面積	560 m ²	作成者	坂田紀子
建築面積	329 m ²	確認日	2012年12月26日
延床面積	2,400 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	76%
③上記+②以外のオンサイト手法	76%
④上記+オフサイト手法	76%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
Q1のスコア = 3.2	Q2のスコア = 3.0	Q3のスコア = 2.7
音環境: 3.2, 温熱環境: 3.0, 空気環境: 3.2	機能性: 2.7, 耐用性・信頼性: 3.2, 対応性・更新性: 3.4	生物環境: 2.0, まちなみ・景観: 3.0, 地域性・アメニティ: 3.0

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア = 3.6	LR2のスコア = 3.2	LR3のスコア = 2.9
建物の熱負荷: 3.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化: 4.7, 効率的運用: N.A.	水資源保護: 3.0, 非再生材料の使用削減: 3.5, 汚染物質回避: 2.6	地球温暖化への配慮: 3.9, 地域環境への配慮: 1.8, 周辺環境への配慮: 3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
清滝神社のある三角山の山裾にあり、関門海峡を望む情感の豊かな「清滝」の風情を味わうことができる立地環境を生かして、戸建て感覚でゆとりのイフスタイルを実現できるようなマンション計画とする。海側からの視点で景観に調和する建物デザインとし、主要な居室を海側に配置して、港町の情緒を味わうような住いとする。	0
Q1 室内環境 国道3号線の騒音を緩和させつつも、関門海峡の眺望を採り入れる開放感のある開口部計画とする。南、北、東西に開口部を設け、明るく風通しの良い環境を整備する。複層ガラスを使用して、温熱環境の質を高める計画とする。床スラブを275mmとして遮音性を向上させている。	Q2 サービス性能 現時点での空間的なゆとりを持たせるため、長期的な更新性を高めるため、構造体にゆとりを持たせた計画としている。具体的には階高を3,260とし、床下と天井空間を持たせた上でLDの天井高さを2700にした。またポイドスラブを採用して小梁のない開放感の高い空間としている。また界壁を乾式工法として、将来的更新性をより高める構造としている。
Q3 室外環境 (敷地内) 商業地域にあるが、高層化することと容積率の消化を抑制することで敷地内空地を確保するように努めた。屋外の空地にはできる限りたくさんの植物を植える計画としている。少しでも昆虫や野鳥が集まってくることを期待した計画としている。	LR1 エネルギー 3面採光、3面通風の住戸計画として、基礎的に環境負荷を抑制する計画としている。給湯器は「エコジョーズ」を採用した。
LR2 資源・マテリアル 節水型便器の採用、追い炊き機能付きの給湯器の採用し節水に努めた計画とした。	LR3 敷地外環境 駐車場を住戸数と同数を確保した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい